

## 2019年寄贈図書リスト

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジア経済
巻	61
号	1
ページ	104-106
発行年	2020-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://doi.org/10.20561/00051705">http://doi.org/10.20561/00051705</a>

## 編集部へ寄贈していただいた書籍

(2019年1月～12月)

- 石川幸一・馬田啓一・清水一史編著『アジアの経済統合と保護主義——変わる通商秩序の構図——』文眞堂 2019, xiii + 219 pp.
- 石塚迅著『現代中国と立憲主義』東方書店 2019, x + 287 pp.
- 石塚浩美著『日中韓働き方の経済学分析——日本を持続するために中国・韓国から学べること——』勁草書房 2019, xvii + 217 pp.
- 磯部靖著『中国 統治のジレンマ——中央・地方関係の変容と未完の再集権——』慶應義塾大学法学研究会 2019, vi + 282 + 5 pp.
- 猪俣哲史著『グローバル・バリューチェーン——新・南北問題へのまなざし——』日本経済新聞出版社 2019, 269 pp.
- 林采成著『鉄道員と身体——帝国の労働衛生——』京都大学学術出版会 2019, 369 pp.
- 林采成著『飲食朝鮮——帝国の中の「食」経済史——』名古屋大学出版会 2019, ix + 309 + 67 pp.
- 牛山隆一著『ASEANの多国籍企業——増大する国際プレゼンス——』文眞堂 2018, xiii + 259 pp.
- 内山雅生編著『中国農村社会の歴史的展開——社会変動と新たな凝集力——』御茶の水書房 2019, xxxiv + 263 pp.
- 大海渡桂子著『日本の東南アジア援助政策——日本型ODAの形成——』慶應義塾大学出版会 2019, iv + 262 + 4 pp.
- 大塚健司著『中国水環境問題の協働解決論——ガバナンスのダイナミズムへの視座——』見洋書房 2019, ix + 217 pp.
- 小川道大著『帝国後のインド——近世的発展のなかの植民地化——』名古屋大学出版会 2019, viii + 438 pp.
- 小山田英治著『開発と汚職——開発途上国の汚職・腐敗との闘いにおける新たな挑戦——』明石書店 2019, 344 pp.
- 上池あつ子著『模倣と革新のインド製薬産業史——後発国のグローバル・バリューチェーン戦略——』ミネルヴァ書房 2019, viii + 304 pp.
- 川島真ほか編『中国の外交戦略と世界秩序——理念・政策・現地の視線——』昭和堂 2020, 260 pp.
- 川名晋史編著『共振する国際政治学と地域研究——基地、紛争、秩序——』勁草書房 2019, v + 285 pp.
- 紀谷昌彦・山形辰史著『私たちが国際協力する理由——人道と国益の向こう側——』日本評論社 2019, ix + 207 + XIII pp.
- 京都大学経済研究所附属先端政策分析研究センター編『文明と国際経済の地平』東洋経済新報社 2020, 208 pp.
- 栗田真広著『核のリスクと地域紛争——インド・パキスタン紛争の危機と安定——』勁草書房 2018, viii + 281 pp.
- 斎藤照子著『18-19世紀ビルマ借金証文の研究——東南アジアの一つの近世——』京都大学学術出版会 2019, xi + 367 pp.
- 櫻間瑛著『現代ロシアにおける民族の再生——ポスト・ソ連社会としてのタタールスタン共和国における「クリャシェン」のエスニシティと宗教=文化活動——』三元社 2018, ix + 379 pp.
- 佐藤仁著『反転する環境国家——「持続可能性」の罫をこえて——』名古屋大学出版会 2019, xv + 318 + 30 pp.
- 澤井充生著『現代中国における「イスラーム復興」の民族誌——変貌するジャマアの伝統秩序と民族自治——』明石書店 2019, 521 pp.
- 志賀美和子著『近代インドのエリートと民衆——民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合——』有志舎 2018, 8 + 357 pp.
- 篠田隆著『インドにおける経営者集団の形成と系譜——グジャラート州の宗教・カーストと経営者——』日本評論社 2019, iv + 528 pp.
- 清水麗著『台湾外交の形成——日華断交と中華民国からの転換——』名古屋大学出版会 2019, v + 284 + 52 pp.
- 隋藝著『中国東北における共産党と基層民衆 1945-1951』創土社 2018, 263 pp.
- 武田晴人・林采成編『歴史としての高成長——東アジアの経験——』京都大学学術出版会 2019, iv + 375 pp.
- 竹村和朗著『現代エジプトの沙漠開発——土地の所有と利用をめぐる民族誌——』風響社 2019, 350 pp.
- 全鎮晟著・佐藤静香訳『虚像のアテネ——ベルリン、東京、ソウルの記憶と空間——』法政大学出版局 2019, xx +

- 545 pp.
- 飛内悠子著『未来に帰る——内戦後の「スーダン」を生きるクク人の移住と故郷——』風響社 2019, 356 pp.
- 富永泰代著『小さな学校——カルティニによるオランダ語書簡集研究——』京都大学学術出版会 2019, iv + 389 pp.
- 外山文子著『タイ民主化と憲法改革——立憲主義は民主主義を救ったか——』京都大学学術出版会 2020, xii + 379 pp.
- トラン・ヴァン・トゥ, 苺込俊二編著『メコン地域開発とアジアダイナミズム』文眞堂 2019, xv + 323 pp.
- トラン・ヴァン・トゥ, 大木博巳 国際貿易投資研究所編著『ASEAN の新輸出大国ベトナム』文眞堂 2018, x + 191 pp.
- トラン・ヴァン・トゥ, 苺込俊二著『中所得国の罫と中国・ASEAN』勁草書房 2019, x + 272 pp.
- 直井里予著『病縁の映像地域研究——タイ北部の HIV 陽性者をめぐる共振のドキュメンタリ——』京都大学学術出版会 2019, iv + 294 + 6 pp.
- 野村俊郎・山本肇著『トヨタの新興国適応——創発による進化——』文眞堂 2018, ix + 170 pp.
- 服部健治・湯浅健司・日本経済研究センター編『米中激突 中国ビジネスの行方——日本企業は激動期をどう勝ち抜くか——』文眞堂 2019, vi + 174 pp.
- 速水洋子編『東南アジアにおけるケアの潜在力——生のつながりの実践——』京都大学学術出版会 2019, ix + 586 pp.
- 平川均ほか編著『「一带一路」の政治経済学——中国は新たなフロンティアを創出するか——』文眞堂 2019, xiii + 254 pp.
- 平田知久著『ネットカフェの社会学——日本の個性性をアジアから開く——』慶應義塾大学出版会 2019, 366 + 23 pp.
- 平山勉著『満鉄経営史——株式会社としての覚醒——』名古屋大学出版会 2019, v + 496 pp.
- 深津嘉成著『中国ビジネスが全く分からない人がわかるようになる本』文眞堂 2019, xii + 231 pp.
- 藤澤潤著『ソ連のコモコン政策と冷戦——エネルギー資源問題とグローバル化——』東京大学出版会 2019, iv + 255 + 51 pp.
- 船津潤著『途上国財政論——グローバリゼーションと財政の国際化——』日本経済評論社 2019, v + 266 pp.
- 星野俊也ほか編『自由の共有と公共政策 (グローバリズムと公共政策の責任第3巻)』大阪大学出版会 2019, xii + 300 pp.
- 細野ゆり著『フィリピンの保健医療改革研究——新制度論アプローチから——』国際書院 2019, 285 pp.
- 堀和生・萩原充編『“世界の工場”への道——20世紀東アジアの経済発展——』京都大学学術出版会 2019, x + 451 pp.
- 益田実・山本健編著『欧州統合史——二つの世界大戦からブレグジットまで——』ミネルヴァ書房 2019, xx + 356 + 12 pp.
- 宮脇聡史著『フィリピン・カトリック教会の政治関与——国民を監督する「公共宗教」——』大阪大学出版会 2019, iv + 345 pp.
- 矢澤達宏著『ブラジル黒人運動とアフリカ——ブラック・ディアスポラが父祖の地に向けてきたまなざし——』慶應義塾大学出版会 2019, v + 256 pp.
- 関学通著『歴史の慣性——これからの中国と世界 2013-2023——』晃洋書房 2019, xiv + 207 pp.
- 李盛煥・木村健二・宮本正明編著『近代朝鮮の境界を越えた人びと』日本経済評論社 2019, vi + 259 pp.
- U-PARL 編『世界の図書館から——アジア研究のための図書館・公文書館ガイド——』勉誠出版 2019, 10 + 219 pp.
- Hidekuni Washida, *Distributive Politics in Malaysia: Maintaining Authoritarian Party Dominance*, Routledge, 2019, xiii + 229 pp.
- Hiromu Shimizu, *Grassroots Globalization: Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras*, Kyoto University Press, 2019, xx + 469 pp.
- Marc Owen Jones, Ross Porter and Marc Valeri eds. *Gulfization of the Arab World*, Gerlach Press, 2017, 166 pp.
- Michael D. Pante, *A Capital City at the Margins: Quezon City and Urbanization in the Twentieth-Century Philippines*, Kyoto University Press, 2019, xv + 367 pp.
- Nanjala Nyabola, *Digital Democracy, Analogue Politics: How the Internet Era is Transforming Politics in Kenya*, Zed Books, 2018, xxiv + 273 pp.